

JR北海道宗谷本線無人駅 東六線駅・北剣淵駅の廃止の同意



東六線駅（東町）

単独では維持困難な線区として
宗谷本線の維持・存続に向け検討

平成28年11月JR北海道では、「単独では維持困難な線区」として10路線13線区を発表し、宗谷本線の名寄〜稚内間が該当となりました。

これを受け、宗谷本線活性化推進協議会が設立され、宗谷本線沿線の自治体への協力が求められました。その後、平成30年1月宗谷本線活性化推進協議会において、JR北海道から各地域へ「利用が少ない無人駅（3人以下/日）の廃止」について検討を進めたい旨の提案がありました。

この提案を受け、剣淵町で該当となる東六線駅、北剣淵駅の存続・廃止が検討されることとなりました。

東六線駅と北剣淵駅の歴史

東六線駅は、地元住民の設置運動によって昭和31年（1956年）から仮乗降場として開設され、昭和34年に無人駅として開駅しました。

地元住民の中には、和寒町大成、北原地域の方も一丸となり設置運動を取組んだ結果、東六線駅として開設されました。

また、北剣淵駅も同じく、地元住民による設置運動から昭和34年（1959年）11月に仮乗降所として開設され、昭和62年（1987年）に駅となりました。

この北剣淵駅の設置工事については、駅の工事を地域住民による出役や寄付を募り完成し、当時の集落住民の市街地への移動を支えていました。



北剣淵駅（藤本町）

秘境駅として知られる

東六線駅と北剣淵駅

現在では、東六線駅、北剣淵駅の利用者がごくわずかとなり上下線3本の列車が停まっています。自動車が移動手段として主流となるにつれ利用者が少なくなっている状況です。

しかし、一部の鉄道ファンには秘境駅としても知られており、鉄道車両の写真撮影を楽しむスポットとして利用もされています。

東六線駅、北剣淵駅は木造の待合室があり、防風林や景観にもマッチしており、まさに、秘境駅として鉄道ファンを魅了しています。

また、北剣淵駅については、平成25年(2013年)音楽アーティストの amazarashi(アマザラシ)による「性善説」という曲のミュージックビデオの撮影地に起用されており、冬の北剣淵駅で撮影が行われ、木造の駅が外国の駅を思わせる映像となっています。

宗谷本線の利用者が年々減少し

年間約53億円の赤字となる

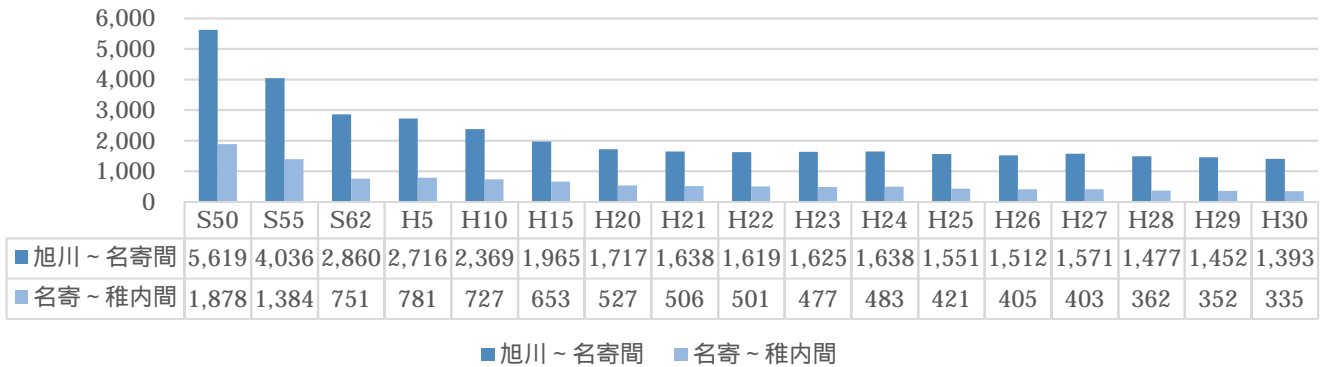
宗谷本線は年々利用者が減少しており、その背景としては沿線の人口減少や少子高齢化、自家用車の普及拡大により昭和50年と比較し、平成30年の時点で旭川～名寄間の利用者が約4分の1、名寄～稚内間は6分の1まで減少しています。

また、現在の東六線駅については、1日平均1名、北剣淵駅については1日平均0.2名の利用で、利用者が1日平均1名以下まで減少している状況です。

また、平成30年度の宗谷本線の収入は約10億4千万円に対し、維持管理費用として約63億6千万円がかかっており、年間約53億円の赤字となっています。

これは、1000円の収入を得るために、旭川～名寄間で527円、名寄～稚内間では738円の費用が必要とする状況で、非常に厳しい状況となっています。

宗谷本線利用者の推移(人/年)



東六線駅・北剣淵駅の

廃止の同意

4月15日町民センターで開催された住民説明会では、JR旭川支社から現在の利用状況や経営状況、維持費などを含めた説明をいただきました。無人駅を今後維持していく場合、除雪費など必要とされる維持経費が東六線駅で年間約70万円、北剣淵駅は年間約110万円が必要となり、JR北海道からは、この費用を自治体で負担が可能な場合は、駅の存続できると提案されました。

しかし、町は今後の利用状況と駅の維持に係る町の負担を総合的に判断したなかで、住民説明会で説明し廃止はやむを得ないものと同意し、これらのことから、東六線駅、北剣淵駅については、令和3年3月をもって廃止となる運びであります。

JR北海道が両駅の廃止を最終決定し次第お知らせいたします。